

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

越前市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	武生東	小学校	業間運動を計画的、継続的に行い、また自分の取り組んだ結果をカードに記録して残すことで、目標を立てたりふり返ったりすることが容易にでき、学校評価の「業間運動や体育的行事に積極的に取り組んでいる」の質問項目に「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した児童が約9割だった。
2	武生西	小学校	時間走にすることで、長距離が苦手な児童も自分なりの目標を決めて練習を行うことができた。学校全体で50%以上の児童が春から秋にかけて記録を伸ばすことができ、達成感を感じていた。実際、記録会後の振り返りでは、「自分の目標を達成し、春より記録を伸ばすことができた」や「来年はさらに記録を伸ばしたい」など前向きな振り返りが多く見られた。 業間運動や体育での活動では、タブレットを用いて回数や時間の記録をさせた。児童が自分の伸びを実感できるようにするとともに、その都度自分の目標を見直すようにさせた。その結果、意欲的に活動に取り組む児童が増えた。 タブレットの動画機能は、体育のどの単元でも自分の動きを確認する際にとっても効果的だった。自分の動きを確認することで、ペアでの話し合いが活性化し、技能の向上だけでなく、思考力の促進につながった。さらに、自分の課題が明確になり、主体的に学びに向かう力の向上にも繋がった。
3	武生南	小学校	今年度強化してきた握力やボール投げは、ほとんどの学年で、県の記録を上回ることができた。4月当初に体育の授業を担当する教員に、共通の準備運動、補強運動を依頼したことが成果につながった要因の一つだと思う。学校で統一した指導方法を行っていくことの大切さを実感した。
4	神山	小学校	体力テストの結果を見ると、どの学年も20mシャトルランが良い結果となった。3年前から、週に1回の持久走活動を実施したことにより、持久力の向上を図ることができた。体育館の割当を行ったり、ボールを学級ごとに配付したりしたことで、休み時間にサッカーや鬼ごっこなどを動かして遊ぶ児童が増えた。
5	吉野	小学校	授業で時間走に取り組み、なわとび大会に向けてフリータイムで練習を定期的に入れ、固定鉄棒を設置するなどの手立てを講じ、運動しやすくする環境を整えることで、意欲的に運動に取り組む姿が見られた。結果、学校評価での「体力向上に取り組む」において、意欲的に体力づくりに取り組む児童が目標(80%)を上回る82%を得られた。 年間を通して、準備運動や授業の中で基礎体力向上に努め、体力テストの長座体前屈においては、ほぼ全学年が全国平均値を上回ることができた。
6	大虫	小学校	準備運動前後に行う「時間走」や「運動遊び」の効果もあり、体力テストでは全国平均以上の結果が得られた。 目標を明確にし、進んで運動に取り組める機会を多く作ったことで、時間走では約半数の児童が各学年の目標値を達成することができた。
7	国高	小学校	体力テストの結果を見ると、全国平均を下回った数値は4年生のシャトルラン、50m走のみであった。体育の時間や休み時間の活動で十分体を動かすことができているのではないかと考える。冬にダンスのインストラクターに来てもらい、全学年でダンスの講習を受けることができた。
8	坂口	小学校	学習において自ら課題を見つけようとする児童が増えた。また休み時間にも児童はほぼ毎日運動遊びを楽しんでいた。そのため学校評価において、「進んで運動や体を使った遊びに取り組んでいる。」の質問において、よくあてはまる、あてはまると回答した児童が100%であった。

9	王子保	小学校	プロの指導者にダンスを教えてもらうことで、体育が苦手な児童も基本的な動きを身につけることができた。 作戦ボードを使うことで、球技が苦手な児童も自分の役割と動きを理解してゲームに参加することができた。
10	北日野	小学校	ICTを活用することで、児童の運動への意欲は向上した。また、客観的に自分の動きを見たり、友達とポイントを見直したりすることで技能の向上にもつながった。 中学年の跳び箱運動では、「踏み切り」「着手」「着地」の3つの視点について動画機能を使い、動きを分析した結果、ほとんどの児童が安定した開脚跳びができるようになった。
11	北新庄	小学校	体育委員会の働きかけや一輪車、竹馬などの遊具の充実化によって、児童アンケートで「休み時間などに体を動かして遊んだ」と回答した児童が昨年に比べて16%増加した。 準備運動において筋力トレーニングやリズム運動を取り入れた結果、体力テストのTスコアにおいて、握力は男子が1.1ポイント上昇、反復横跳びは男子が1.9ポイント、女子は2.9ポイント上昇した。
12	味真野	小学校	先生方、家庭や地域の方々の協力もあり、目標を持って取り組むことができたと回答した児童は90%であった。体育の授業でも振り返りなどをみると、前時の内に具体的な目標を設定し次の授業に臨んでいる児童が多数見られた。
13	白山	小学校	業間体育では、業間マラソン、全校大なわ、縦割りでの集団遊び、業間チャレンジ等、年間を通じて計画的、継続的に行った。多様な運動に、運動量を確保しながら取り組むことで、4～6年生が行った体力テストでは、全種目の81%で県平均よりも上回る結果を残した。
14	南中山	小学校	4月～11月まで、水・金の週2回5分間走に取り組んだ。雨天時で5分間走ができない時は、なわとび運動に取り組んだ。児童が運動に取り組む際に音楽をかけ、意欲的に運動に取り組むようにした。 昨年度の課題であった体力テストの結果を踏まえ、学校全体で体力向上に取り組んだ結果、8割以上の種目で県平均を上回ることができ、大きな成果となった。
15	花筐	小学校	マラソン大会では、低学年同士、中学年同士、高学年同士と一緒に練習する機会をもつことで、互いに励まし合いながら練習に取り組む様子が見られた。 授業では、ICTの活用してお互いに動画を確認し合ったり、学習履歴を残していったりして、自分なりの目標を立てて活動に励むことができた。
16	服間	小学校	体育の授業での個に応じたワークシートやデジタルコンテンツの活用、業間運動の目標設定やカード活用などにより、児童用学校評価アンケートの「体育の授業、休み時間の遊び、業間体育をがんばっているか。」という項目で、「あてはまる」「おおむねあてはまる」が96%となった。
17	岡本	小学校	立ち幅跳びのセカンドチャレンジでは、記録が向上した児童が全体の86%で平均13cm記録が向上した。粗形態を身につけたり跳ぶ経験を積んだりしたことで、記録の向上につながったと考える。記録の伸びを実感したり更なる記録に向けて挑戦したりする児童の意欲的な様子が見られた。